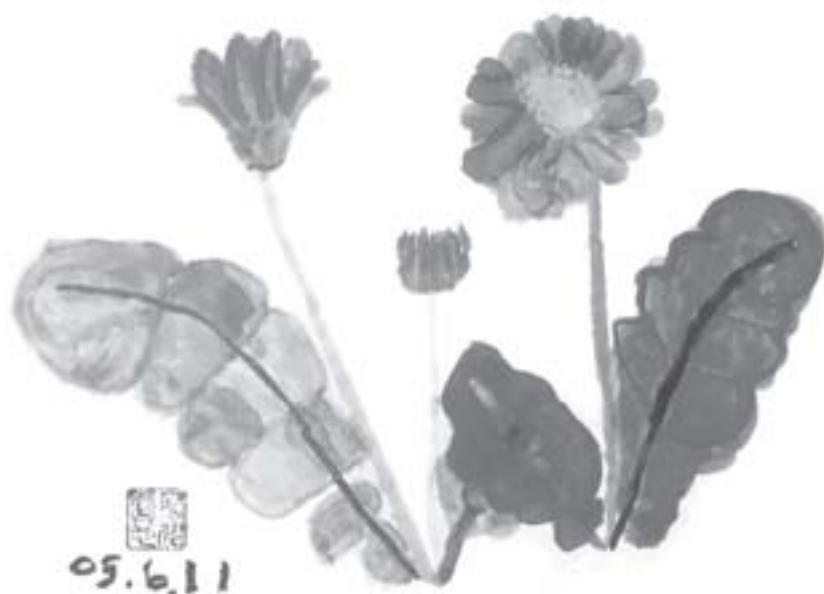


学校における性教育の 実態調査報告書



愛媛県性教育実践推進検討委員会

愛媛県教育委員会

目 次

I 「学校における性教育」の推進に関する提言

II 学校における性教育の実態調査

1 実態調査結果	1
2 統計的検証	12
3 学校における性教育の推進に関する意見	
○ 効果的な取組	14
○ 今後、取り組みたいこと	15
○ 課題	16
4 課題等へのQ&A	17

III 資料編(参考例)

○ 小学校(性教育全体計画、年間指導計画等)	19
○ 中学校(性教育全体計画、指導内容、啓発資料等)	24
○ 高等学校(性教育全体計画～WYSH教育を活用して～)	30

すべての教職員の皆さんへ

昨年7月に「からだ・いのち・こころを守り育てる教育のために」と題した性教育指導マニュアルのダイジェスト版がお手元に届いたことと思います。

本報告書は、このダイジェスト版の活用状況など、各学校における性教育の実態調査の結果と、調査を通じて明らかになった課題をまとめたものです。

まずは、課題を踏まえて愛媛県性教育実践推進検討委員会でまとめた以下の提言をご覧ください。なお、詳細については、「Ⅱ 学校における性教育の実態調査」以降をご覧ください。各学校において、この提言を踏まえた取組が広がることを期待しています。

Ⅰ 「学校における性教育」の推進に関する提言

<提言1>なぜ、性教育に取り組むのだろうか？ ～意識改革～

- 性の問題は、都市部だけの問題であるとか、自分の地域には無縁のことだとか思っていないですか。

「性教育指導マニュアル」を参考に、児童生徒の実態把握をしてみましょう。

- 子どもたちが自然に学んでいくとは限りません。
また、家庭だけで取り組むことでも、学校だけで取り組むことでもありません。
次世代を担う子どもたちへの責任として、大人が連携して、きちんと教える機会を作っていく必要があります。

- 知識を教えることだけを考えていませんか。これからの性教育には、人間関係の築き方に必要なことの指導も重要です。

そういった教育は、実は日常の指導の中ですで行っている部分もあるはずです。

まずは<提言2>をもとに、担当者を中心に各教科や生徒指導、教育相談等の活動内容を振り返ってみるなど、できることから始めてみましょう。

<提言2>どうしたら、効果的に取り組めるのだろうか？ ～組織改革～

- まずは、性教育にかかわる担当者を校務分掌に位置づけましょう。
- 全体計画や年間指導計画を作成し、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等を有機的に関連付けて、計画的・継続的・組織的に指導を行えるようにしましょう。
- 学校と家庭、地域が、それぞれの役割を理解し、連携・協力して取り組んでいくことが重要です。保護者や地域の方々とつながる場を創っていきましょう。

Ⅱ 学校における性教育の実態調査

1 目的

平成19年度のすべての学校における性教育の実態及び課題を把握するとともに、その結果を愛媛県性教育実践推進検討委員会で検討し、すべての教職員が取り組む性教育推進のための支援に生かす。

2 調査時期 平成19年11月

3 調査対象校

(1) 市町立小学校	356 校
(2) 市町立中学校	144 校
(3) 県立中等教育学校	3 校
(4) 県立高等学校(全日制)	56 校
(5) 県立高等学校(定時制)	15 校
(6) 県立特別支援学校	12 校

4 調査方法 (調査用紙については、資料編参照)

- (1) 小・中学校は、調査票を各教育事務所に送付し、関係市町教育委員会を通じて各学校へ配布し、回収した。
- (2) 県立学校は、調査票を各学校へ送付し、回収した。

5 調査結果

調査結果については、4項目に分類して示す。

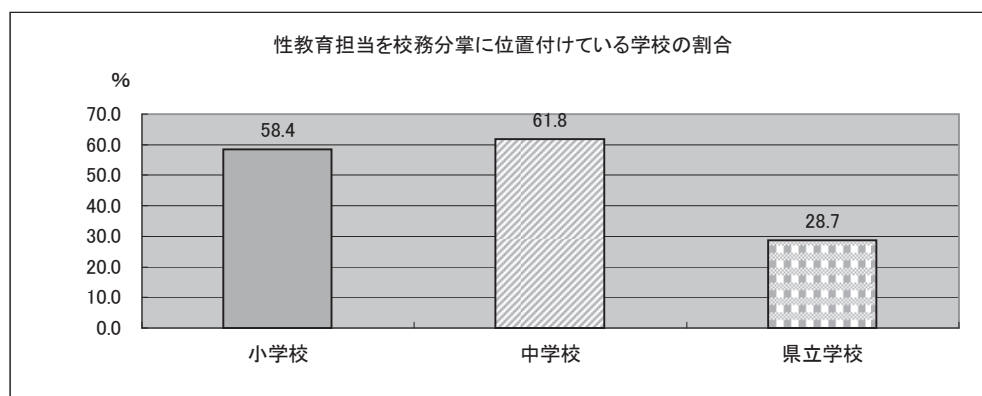
- (1) 性教育の校内体制の実態
- (2) 保護者との連携状況
- (3) 性教育指導マニュアル・ダイジェスト版の活用状況
- (4) 性教育を推進する上での課題

1 実態調査結果

(1) 性教育の校内体制の実態

問1 性教育に関わる担当を校務分掌に位置付けている状況

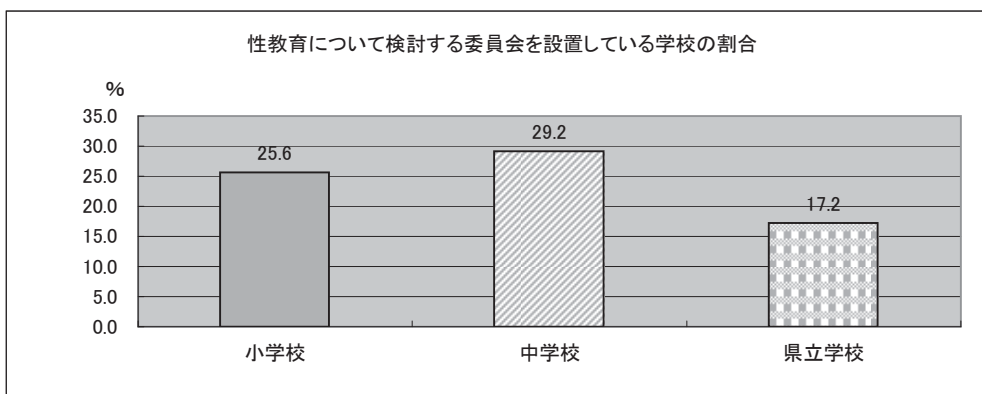
	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
位置付けている	208	58.4	89	61.8	25	28.7	1	33.3	21	29.2	3	25.0	322	54.9
位置付けていない	148	41.6	55	38.2	62	71.3	2	66.7	51	70.8	9	75.0	265	45.1
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0



※ 小学校、中学校においては、60%前後の学校に性教育の担当者が校務分掌に位置付けられているが、県立学校では、30%に満たない。

問2 性教育について検討する委員会の設置状況

	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
設置している	91	25.6	42	29.2	15	17.2	0	0.0	13	18.1	2	16.7	148	25.2
設置していない	265	74.4	102	70.8	72	82.8	3	100.0	59	81.9	10	83.3	439	74.8
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0



※ 性教育について検討する委員会を設置している学校は、小学校91校(25.6%)、中学校42校(29.2%)、県立学校15校(17.2%)で、30%に満たない。

問2-1 性教育について検討する委員会名

複数回答 (学校数)

	小学校	中学校	県立学校	県立学校の内訳			合 計
				中等教育学校	高等学校	特別支援学校	
学校保健委員会 及び学校健康委員会	61	31	12	0	12	0	104
学校保健部会 及び健康教育部会	16	3	0	0	0	0	19
保健体育部会	4	0	0	0	0	0	4
特別活動部会	0	1	0	0	0	0	1
企画委員会・職員会	6	1	0	0	0	0	7
研究推進委員会	3	1	0	0	0	0	4
性教育研究推進委員会 及び性教育部会	2	5	3	0	1	2	10
地区学校保健委員会	1	1	0	0	0	0	2
合 計	93	43	15	0	13	2	151

※ 小学校、中学校、高等学校ともに、「学校保健委員会・学校健康委員会」「学校保健部会・健康教育部会」など既存の組織で性教育の検討を行っている学校がほとんどであるが、「性教育研究推進委員会・性教育部会」といった性教育のための委員会を設置している学校も、10校あった。

問2-2 性教育について検討する委員会への管理職参加状況

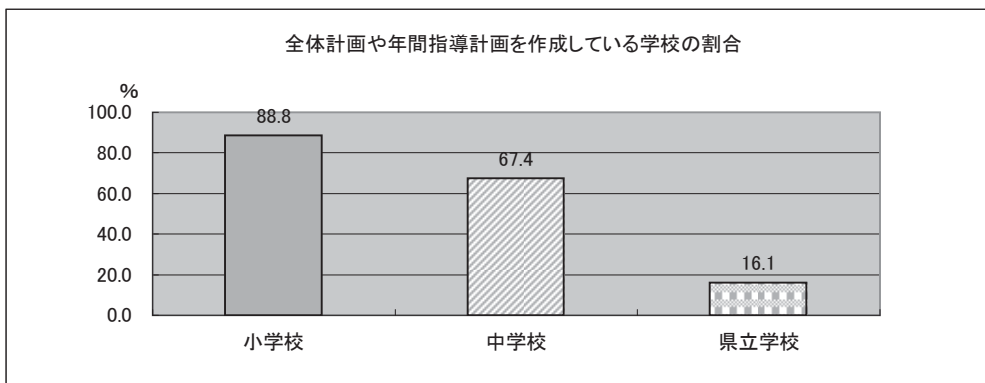
(学校数)

	小学校	中学校	県立学校	県立学校の内訳			合 計
				中等教育学校	高等学校	特別支援学校	
参加している	71	39	14	0	12	2	124
ときどき参加している	9	1	0	0	0	0	10
あまり参加していない	1	0	0	0	0	0	1
参加していない	10	2	1	0	1	0	13
合 計	91	42	15	0	13	2	148

※ 委員会を設置している学校では、ほとんど管理職が委員会に参加している。

問3 性教育に関する全体計画や年間指導計画の作成状況

	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
作成している	316	88.8	97	67.4	14	16.1	0	0.0	13	18.1	1	8.3	427	72.7
作成していない	40	11.2	47	32.6	73	83.9	3	100.0	59	81.9	11	91.7	160	27.3
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0



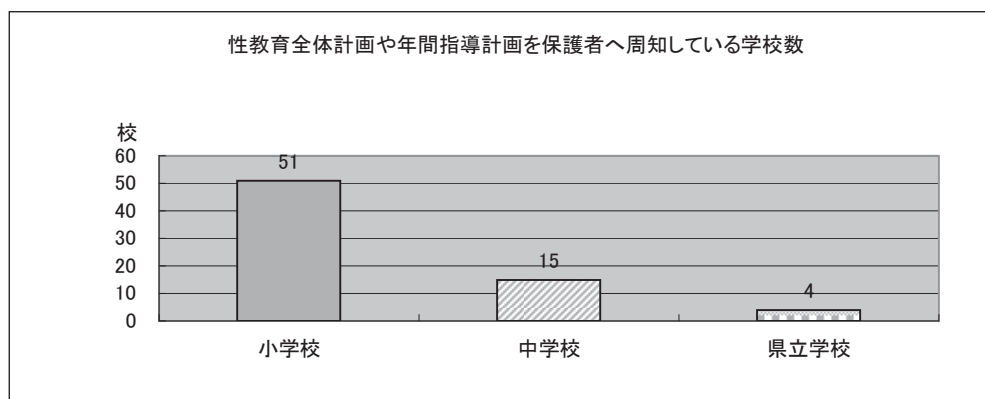
※ 小学校は約90%、中学校は約70%、計画を立てて性教育を実施しているが、県立学校は20%以下であり、計画的に実施できていない学校がほとんどであった。

(2) 保護者との連携状況

問4 保護者への周知状況(性教育全体計画や年間指導計画)

(全体計画等を作成している学校が回答)

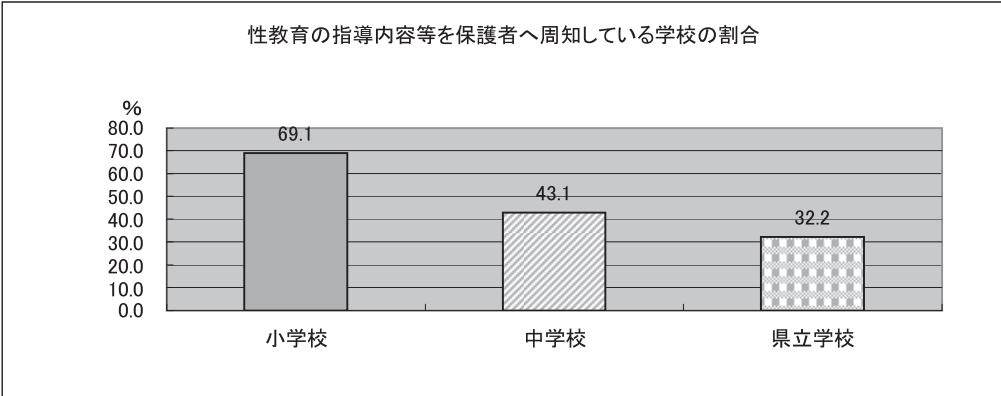
	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
周知している	51	16.1	15	15.5	4	28.6	0	0.0	3	23.1	1	100.0	70	16.4
周知していない	265	83.9	82	84.5	10	71.4	0	0.0	10	76.9	0	0.0	357	83.6
合 計	316	100.0	97	100.0	14	100.0	0	0.0	13	100.0	1	100.0	427	100.0



※ 性教育全体計画や年間指導計画を作成している427校のうち、保護者へ周知している学校は70校(16.4%)であった。

問5 保護者へ周知状況(性教育に関する指導内容等)

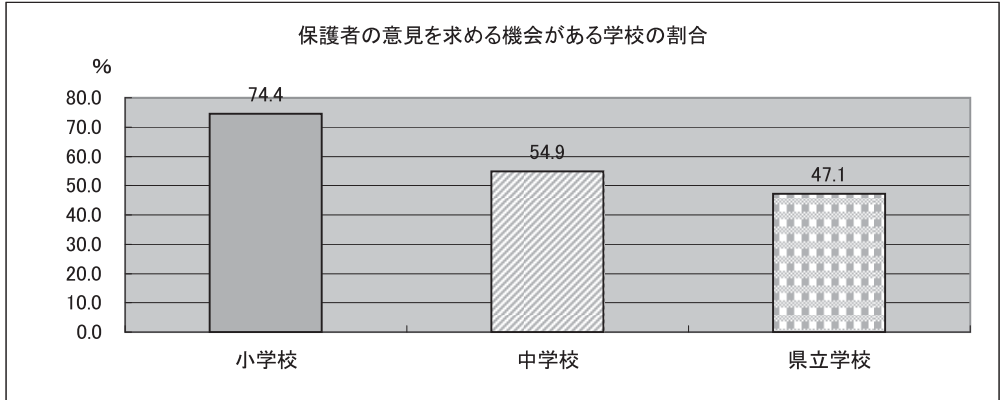
	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
周知している	246	69.1	62	43.1	28	32.2	2	66.7	19	26.4	7	58.3	336	57.2
周知していない	110	30.9	82	56.9	59	67.8	1	33.3	53	73.6	5	41.7	251	42.8
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0



※ 性教育に関する指導内容を保護者へ周知している学校は、小学校246校(69.1%)、中学校62校、(43.1%)、県立学校28校(32.2%)であった。

問6 学校における性教育について、保護者の意見を求める機会の有無

	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
ある	265	74.4	79	54.9	41	47.1	1	33.3	33	45.8	7	58.3	385	65.6
ない	91	25.6	65	45.1	46	52.9	2	66.7	39	54.2	5	41.7	202	34.4
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0



※ 学校における性教育について保護者の意見を求める機会がある学校は、小学校265校(74.4%)、中学校79校(54.9%)、県立学校41校(47.1%)であった。

【問4～6関連 保護者への周知方法や意見を求める機会】

複数回答（学校数）

問 4	周知方法	小学校 N=51	中学校 N=15	県立学校 N=4	県立学校の内訳			合 計
					中等教育学校	高等学校（3校）	特別支援学校（1校）	
全体計画・年間指導計画	学校保健委員会	22	8	3	0	3	0	33
	保健だより	24	8	1	0	1	0	33
	学年だより	15	5	0	0	0	0	20
	学級だより	14	2	0	0	0	0	16
	保護者会	11	2	0	0	0	0	13
	学校だより	5	2	1	0	1	0	8
	懇談会	3	2	1	0	0	1	6
	PTA総会	3	1	0	0	0	0	4
	家庭訪問	1	0	0	0	0	0	1
	その他	10	0	1	0	1	0	11

※ その他の内訳
 小学校—参観日・参観日案内、PTA学級
 高等学校—エイズ教育講演会、文化祭（保護者講演会）、思春期親子アンケート

複数回答（学校数）

問 5	周知方法	小学校 N=246	中学校 N=62	県立学校 N=28	県立学校の内訳			合 計
					中等教育学校（2校）	高等学校（19校）	特別支援学校（7校）	
指導内容等	保健だより	150	46	15	1	10	4	211
	学級だより	123	16	7	1	2	4	146
	学年だより	119	20	4	1	2	1	143
	学校だより	45	22	5	0	5	0	72
	学校保健委員会	36	18	8	0	8	0	62
	保護者会	46	2	1	0	0	1	49
	懇談会	26	3	7	0	1	6	36
	家庭訪問	8	0	3	0	0	3	11
	PTA総会	0	1	0	0	0	0	1
	その他	47	5	7	0	3	4	59

※ その他の内訳
 小学校—参観日・参観日案内、学級PTA、PTA学級、PTA常任委員会、保護者アンケート、教育相談
 中学校—授業参観・参観案内、地区別懇談会、性教育講演会、指導後の懇談会
 高等学校—エイズ教育講演会、文化祭（保護者講演会）、思春期親子アンケート、講演会案内、シラバス
 特別支援学校—連絡帳、登下校の送迎時

複数回答（学校数）

問 6	機会	小学校 N=265	中学校 N=79	県立学校 N=41	県立学校の内訳			合 計
					中等教育学校（1校）	高等学校（33校）	特別支援学校（7校）	
保護者の意見を求める機会	参観日	205	19	1	0	0	1	225
	学校保健委員会	108	46	26	1	24	1	180
	アンケート調査	83	25	8	0	8	0	116
	保護者会	61	3	7	0	6	1	71
	ワークシート	27	3	0	0	0	0	30
	PTA総会	7	2	1	0	1	0	10
	その他	20	13	13	0	6	7	46

※ その他の内訳
 小学校—参観後の感想、学級PTA、PTA学級、学年・学級・保健だよりへの返信欄、学校評価アンケート、教育相談
 中学校—地区別懇談会、講演会後の意見交換、学級PTA、家庭教育学級、PTA役員研修会、個人懇談、思春期教室
 高等学校—性教育講演会、PTA役員会、生徒指導委員会
 特別支援学校—連絡帳、登下校の送迎時、個別懇談

(3) 性教育マニュアル及びダイジェスト版の活用状況

問7 性教育指導マニュアル又はダイジェスト版の校内教職員への周知状況

複数回答（学校数）

	小学校	中学校	県立学校	県立学校の内訳			合 計
				中等教育学校	高等学校	特別支援学校	
配布した	203	76	54	1	44	9	333
職員朝礼等で周知	142	39	41	1	35	5	222
回覧した	71	26	11	0	9	2	108
特に何もしていない	8	14	3	0	2	1	25
その他	74	15	5	1	4	0	94
合 計	295	94	60	2	50	8	449

※ 性教育指導マニュアル等の校内教職員への周知状況は、配布した学校が333校、職員朝礼等で周知した学校が222校、回覧した学校が108校であった。特に何もしていない学校が25校あった。

問8 担任等が性教育指導マニュアル又はダイジェスト版を活用できる状況

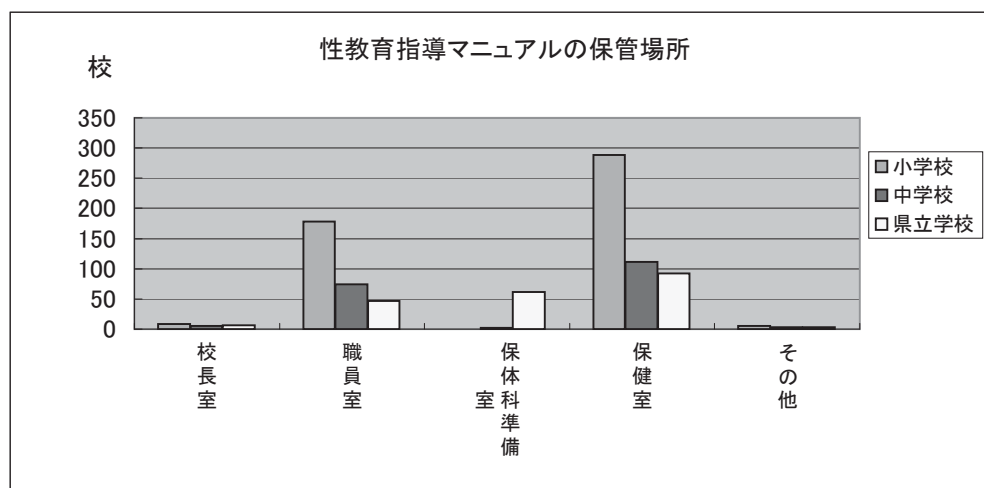
	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
なっている	351	98.6	132	91.7	80	92.0	3	100.0	66	91.7	11	91.7	563	95.9
なっていない	5	1.4	12	8.3	7	8.0	0	0.0	6	8.3	1	8.3	24	4.1
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0

※ 性教育指導マニュアル等は90%以上の学校で、担任等が使用したい時に使用できる状況になっている。

問9 性教育指導マニュアルの保管場所

複数回答（学校数）

	小学校	中学校	県立学校	県立学校の内訳			合 計
				中等教育学校	高等学校	特別支援学校	
保健室	289	111	92	3	80	9	492
職員室	178	74	47	1	39	7	299
体育、保健体育科準備室	0	2	61	3	57	1	63
校長室	8	5	6	0	5	1	19
その他	5	3	3	0	3	0	11



※ 性教育指導マニュアルの保管場所は、「保健室」、「職員室」、「体育・保健体育科準備室」の順であった。

問10 性教育指導マニュアルの県教委ホームページ掲載に関する認知状況

	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%		
知っている	203	57.0	72	50.0	51	58.6	3	100.0	41	56.9	7	58.3	326	55.5
知らない	153	43.0	72	50.0	36	41.4	0	0.0	31	43.1	5	41.7	261	44.5
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0

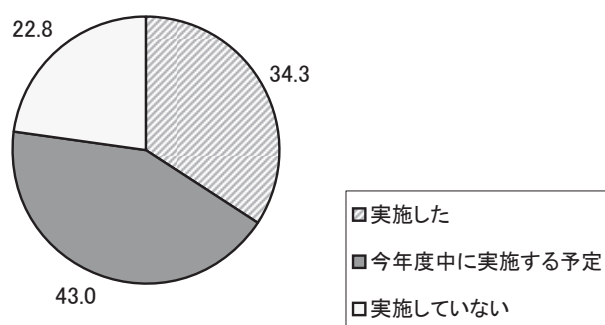
※ 性教育指導マニュアルのホームページへの掲載については、配布時に文書で通知し、性教育指導者講習会でも伝達したが、そのことを知っている学校は、小・中・県立学校とも60%未満であった。

問11 校内研修(性教育)の実施状況

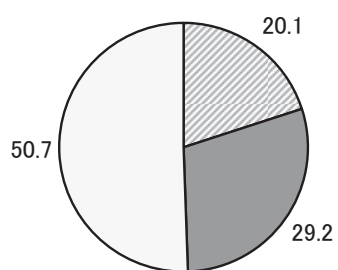
	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%		
実施した	122	34.3	29	20.1	17	19.5	1	33.3	13	18.0	3	25.0	168	28.6
今年度中に実施する予定	153	43.0	42	29.2	13	15.0	0	0.0	11	15.3	2	16.7	208	35.4
実施していない	81	22.7	73	50.7	57	65.5	2	66.7	48	66.7	7	58.3	211	36.0
合 計	356	100.0	144	100.0	87	100.0	3	100.0	72	100.0	12	100.0	587	100.0

性教育の校内研修実施状況

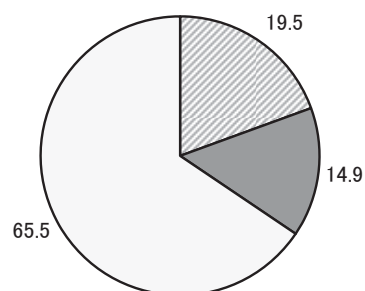
小学校 (%)



中学校 (%)



県立学校 (%)



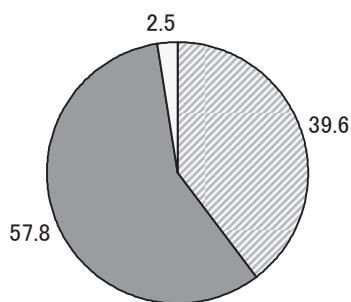
※ 性教育の校内研修実施状況は、実施予定を含めて今年度中に実施する学校は、小学校（77.3%）、中学校（49.3%）、県立学校（34.4%）であった。

問11－1 校内研修(性教育)における性教育指導マニュアル等の活用状況

	小学校		中学校		県立学校		県立学校の内訳						合 計	
							中等教育学校		高等学校		特別支援学校			
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
活用した	109	39.6	21	29.6	9	30.0	1	100.0	6	25.0	2	40.0	139	37.0
活用する予定	159	57.8	42	59.1	12	40.0	0	0.0	10	41.7	2	40.0	213	56.6
活用しない	7	2.6	8	11.3	9	30.0	0	0.0	8	33.3	1	20.0	24	6.4
合 計	275	100.0	71	100.0	30	100.0	1	100.0	24	100.0	5	100.0	376	100.0

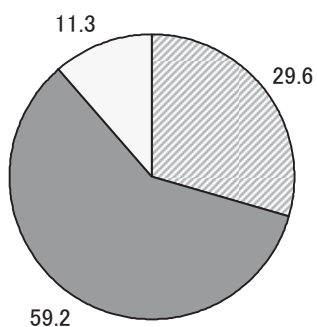
性教育指導マニュアル活用状況

小学校 (%)

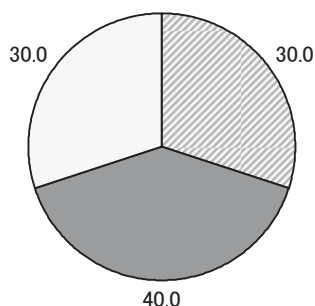


☒ 活用した
☒ 活用する予定
☐ 活用しない

中学校 (%)



県立学校 (%)



※ 性教育の校内研修を今年度実施する学校のうち、性教育指導マニュアルを活用する学校（活用予定を含む。）は、小学校（97.4%）、中学校（88.8%）、県立学校（70.0%）であった。

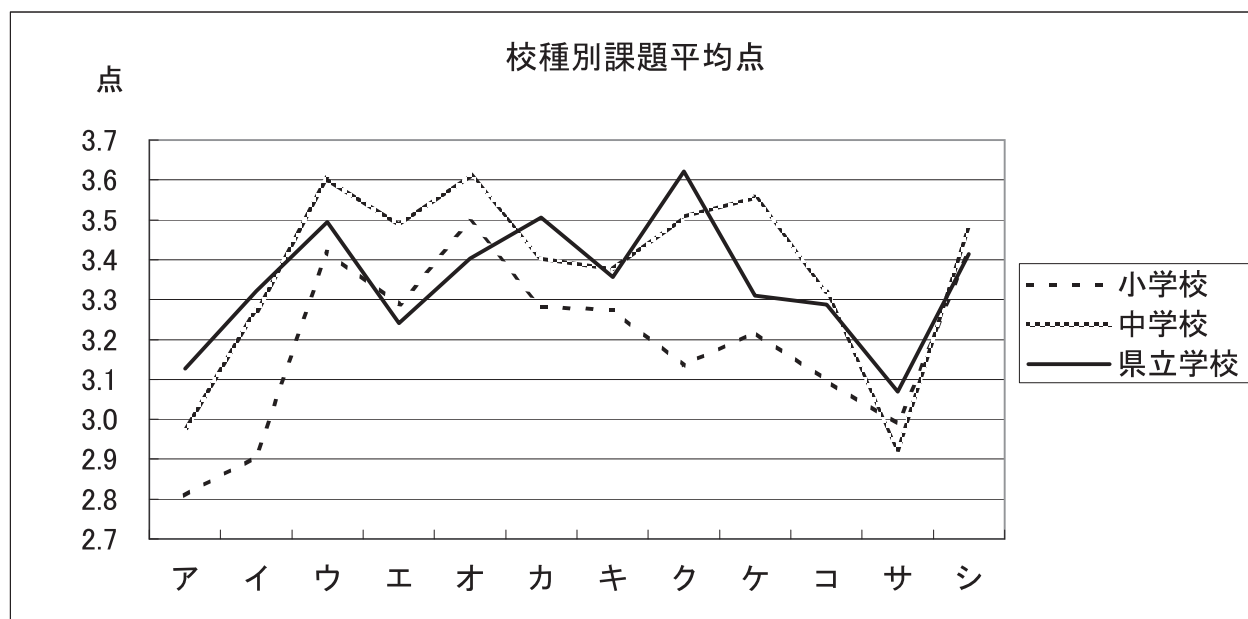
(4) 性教育を推進する上での課題

問12 性教育を推進する上での課題(下表のア～シ)について、どの程度課題があると考えているのか、回答のあった段階の数字が大きいほど課題の重要度が高い。
校種別の平均点は、次のような結果であった。

		(点)											
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ
小学校		2.8	2.9	3.4	3.3	3.5	3.3	3.3	3.1	3.2	3.1	3.0	3.4
中学校		3.0	3.3	3.6	3.5	3.6	3.4	3.4	3.5	3.6	3.3	2.9	3.5
県立学校		3.1	3.3	3.5	3.2	3.4	3.5	3.4	3.6	3.3	3.3	3.1	3.4
県立学校 の内訳	中等教育学校	3.0	3.0	3.7	3.3	3.3	3.3	3.7	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
	高等学校	3.2	3.4	3.5	3.3	3.4	3.5	3.3	3.7	3.3	3.3	3.1	3.4
	特別支援学校	2.9	3.1	3.2	3.2	3.4	3.7	3.4	3.3	3.4	3.1	3.0	3.3

(段階:5・・・大いにある、4・・・少しある、3・・・どちらでもない、2・・・あまりない、1・・・全くない)

課題項目	ア 管理職による校内体制の整備
	イ 教職員各自の役割の明確化
	ウ 性教育推進委員会等による性教育の計画作成・検討
	エ 性教育推進委員会等による実施状況等の管理
	オ 性教育推進委員会等の時間確保と定例化
	カ 校内教職員研修の実施
	キ 教職員の校外研修への参加
	ク 児童生徒の実態や性教育の必要性等の教職員の共通理解
	ケ 教材、教具の研究・開発と保管
	コ 学校と保護者等との連携、信頼関係の確立
	サ 外部講師を活用する際の事前打合せの徹底
	シ 実践の評価と改善

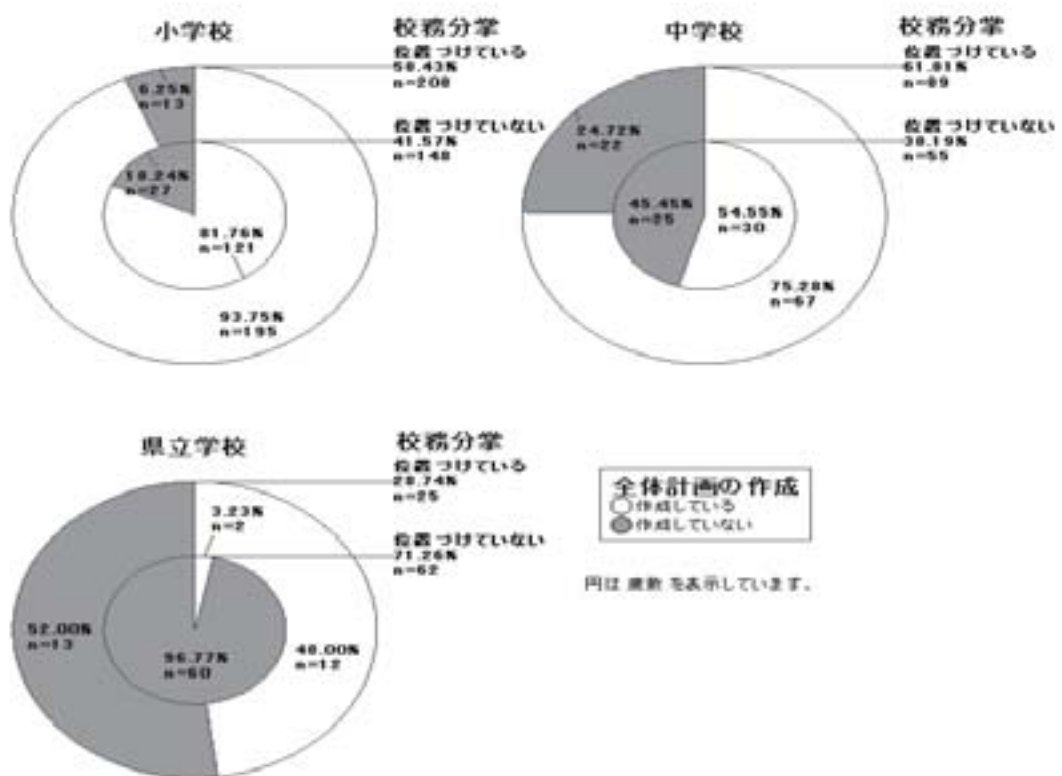


- ※ すべての校種において、「管理職による校内体制の整備」と「外部講師との事前打合せ」についての課題意識は、いずれも3.1以下で、他の項目に比べて低い。
- ※ 「教職員の共通理解」については、小学校(3.1)に比べて、中学校(3.5)、県立学校(3.6)は高い。
- ※ 小学校は、全体的に他の校種に比べて、課題意識が低い。
- ※ 中学校は、「性教育の計画作成」、「性教育について検討する時間の確保」、「教材、教具の研究等」の項目において3.6ポイントとなっており、他の校種に比べて、課題意識が高い。
- ※ 県立学校は、校内体制の整備や校内研修の実施状況が十分ではないにもかかわらず、課題意識をあまり感じていない傾向がある。

2 統計的検証

関連性の検証 1

- ☆ 性教育に関わる担当者を校務分掌に位置付けている学校の方が、全体計画や年間指導計画を立てている割合が高い。(カイ2乗検定)

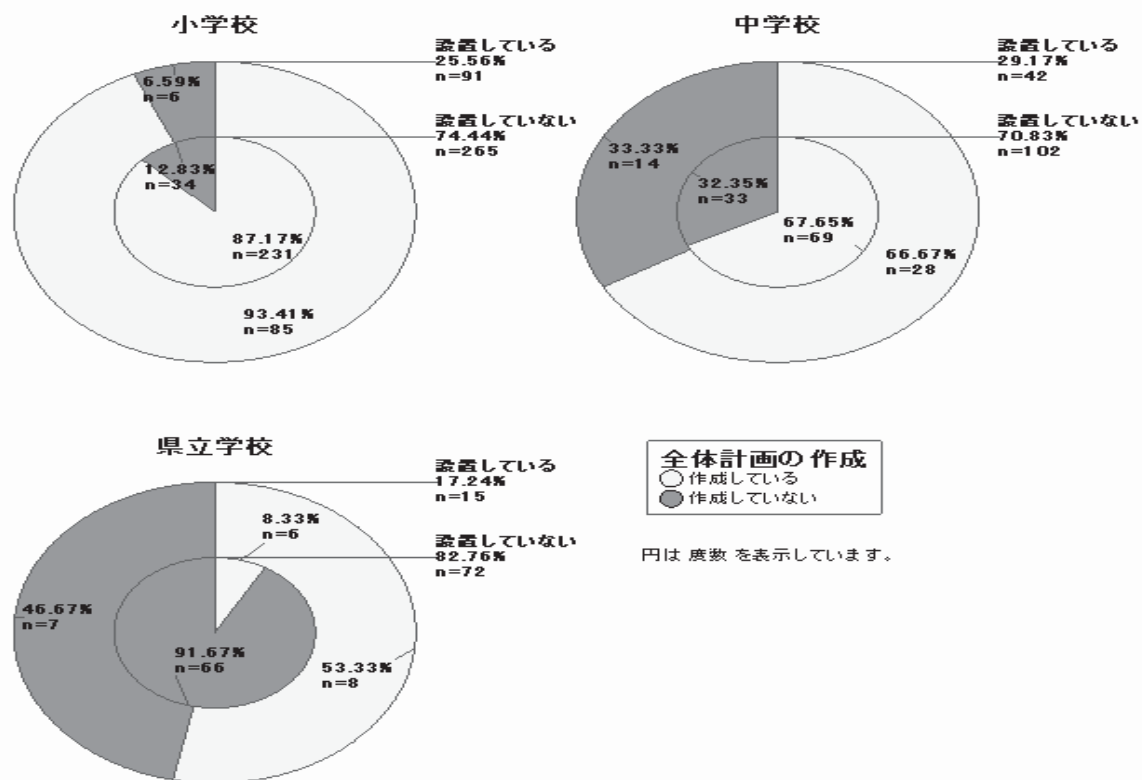


関連性の検証 2

- ☆ 性教育に関わる担当者が校務分掌に位置付けられていない学校の方が、※課題点が高い。(F検定)
- ※課題点は、問12のア～シの各項目の課題の段階(1～5)の和とした。

関連性の検証 3

☆ 県立学校においては、委員会の設置されていることと、全体計画や年間指導計画を立てていることに関連性がある。（カイ2乗検定）

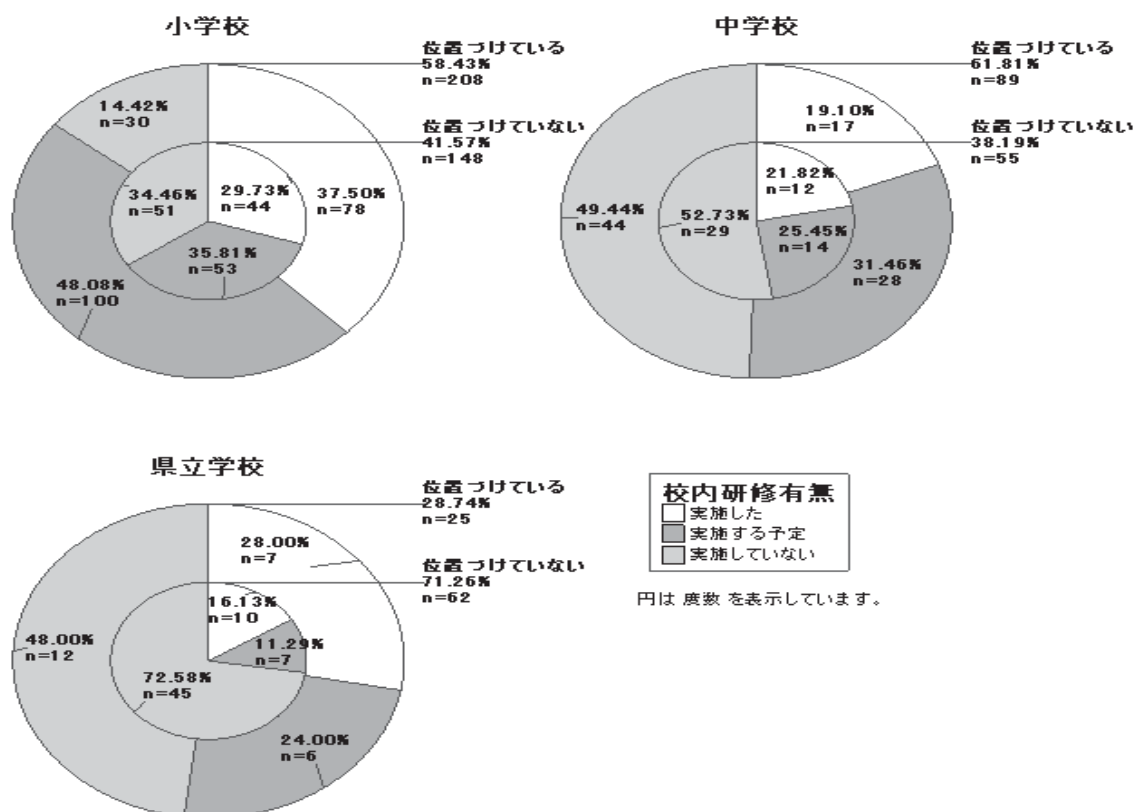


関連性の検証 4

☆ 学校種別で見ると、全体的に小学校と県立学校が対照的である。
 ☆ 県立学校では、校務分掌への位置付けや計画作成の少なさが目立つ。
 ☆ 保護者への周知や性教育指導マニュアルの使用、校内研修の状況において、小学校でできていると回答した数値が高いのに比べ、中・県立学校は少ない。
 （カイ2乗検定）

関連性の検証 5

☆ 小学校において、性教育に関わる担当者が校務分掌に位置付けられている学校の方が、校内研修が行われている。
(カイ2乗検定)



3 学校における性教育の推進に関する意見

【効果的な取組】

- 「性教育指導マニュアル」によって全教職員で研修を行い、効果があった。
- 各クラス独自の指導ではなく、学年団が同じ教材を使用し、共通意識を持たせる取組は効果的である。
- 性教育指導者研修会に、本校から2名参加して自校での研修の持ち方などに効果があった。

【今後、取り組みたいこと】

- 全体計画や指導計画を作成し、系統的に指導できる校内体制を早急に整備する必要がある。
- 性教育について検討する委員会の設置を図りたい。
- 性教育は小学部から高等部まで一貫した指導を続ける必要がある。従って、性教育委員会の機能の充実を図り、課題や全校での取組について検討する機会を増やしていきたい。
- 現在、保健体育科が主体となって指導をしているが、全校体制で行っていきべきだと考えている。
- 全学年を見通した年間指導計画作成と教材・資料開発を行いたい。
- 性教育指導マニュアルを参考に、性教育の内容等の改善をしたい。
- マニュアルやダイジェストができたことを機に、共通理解をし、見直しを進めたい。
- 全校体制で内容を検討し、より効果的な指導を行う。
- 各学級担任は、年間指導計画に沿って性教育の授業を実施し記録を累積しているが、内容の検討を今後、行っていかなければならない。
- 人間の生き方を考える機会を子どもと共有する時間という認識の下で、全教育活動で推進したい。
- 日ごろの児童との何気ない会話から感じたことなども記録しておき、全教職員で共通理解を図ることも児童の発達段階に応じた指導につながると思う。地道な作業ではあるが、取り組んで生きたい。また、養護教諭と連携を図り、効果的な指導を行っていききたい。
- 「すべての教職員が取り組む性教育の指導マニュアル」を使用したのが、年度の途中だったので、来年度はスタートから機能させられるよう、今年度の内からしっかり校内体制を組みたい。
- 年度初めに校内研修の時間を確保してスタートさせる。
- 発達段階に応じた指導内容を明確にするとともに、他教科や理専などとの関連・連携を図り年間を通じて効果的な指導を行っていく必要がある。
- 幼小中合同校舎の利点を生かし、各校種でどのように性教育が実施されているか共通理解を図っていききたい。
- 小中が連携して系統的な性教育を実施する必要がある。
- 生徒の実態把握から始め、全校体制で推進していくこと、そのための意識改革が急務である。
- 性教育の学習の場が保健体育科の授業に頼ってしまっているので、学級活動においても取り組んでいく必要がある。
- 個人差があり、集団指導と個人指導の必要性を感じている。
- 寄宿舎での性教育の在り方について、学校、保護者、寄宿舎の連携が必要であると感じている。

【課題】

- 学年間での話し合いをする時間がとりにくい。
- 計画や検討、実態把握等の時間を確保しにくい。
- 発達段階に応じた指導内容の研究と改善のための職員研修の時間確保ができていない。
- 学校現場に求められていることが教科や教科外研修でもあまりに多いため、現実として研修の充実を図りにくい。
- 性教育の研修会が少なく、勉強の場がない。
- 学校で早急に取り組まなければならない課題が多く、性教育についてじっくり検討する時間の確保が難しい。
- 教職員で性教育を進めていく必要があると強く思っているが、今まで時間的な確保ができていない。昨年、2年生の実態は把握したものの、全職員に問題提起ができていない。
- 性教育の必要性は強く感じているが、環境教育、福祉教育、情報教育、国際理解教育等教科外も数多くあり、教員一人が複数分担しており、それぞれの分野において成果を上げることは難しい。
- 養護教諭や保健体育科の先生方に頼りきっているように思う。
- 性教育は保健でという意識があり、全校体制で取り組むには職員全員の意識改革も必要となる。通常の状態であれば、性教育だけをとりあげてその時間を確保することは難しい。
- 表面的な指導で終わり、人間としてのあり方、生き方まで踏み込めていない
- 中学生の男女交際については「個人の自由である」という認識が強くあり、学校体制としてどう指導すべきか戸惑うことが多くなってきた。
- 年間を通して発達段階や意識レベルに応じた性教育を行っていく必要性を感じているが、単発的な教育になりやすく、継続的に指導していくための時間の確保が難しい。
- 男性・女性教師で指導等に温度差がある。
- 保健所に頼りがちである。
- 小規模校であるので、教員一人一人がかかえる校務内容が多く、性教育に関する研修の時間の確保を行うのが難しい。
- 性教育以外のことで対応すべきことが多く、二の次になっている。
- 情報過多の現在、教育がついていけない現状に悩む。
- 性情報の氾濫と、生徒の意識(感覚)の温度差が大きいこと。
- 指導内容と社会情勢のずれを感じる。
- 生徒だけでなく、保護者・教員も温度差があってデリケートな部分が大きいだけに難しい。
- 学校での学習が親子で話し合う家庭教育につながることを望んでいるが、保護者の意識は多様であり、難しさも感じている。
- 保護者へ周知する機会を設けているが、参加者が少なく、周知する場及び方法を検討しなければならない。
- 家庭環境の複雑化で、指導の際に配慮することが多い。
- 保護者(地域)等との連携のとり方に難しさを感じる。
- 行き過ぎた性教育を心配する保護者の声が多く、積極的な取組が行えていない。
- 複式学級のため指導内容が異なり、難しさを感じる。
- 複式学級では発達、発育に差がある子どもたちに指導しなければならないこと。
- 個人差が大きく一斉指導は難しい。
- 重複障害児童生徒への指導をどのように行えばよいか。(特別支援学校)
- 社会に出て困らない生活態度を身につけていくことが特別支援学校で求められる課題であると思う。(特別支援学校)

4 課題等へのQ&A

○ 性に関する知識について、児童の質問にどこまで答えればよいかがむずかしい。

(回答) 児童が質問してきた時に、発達段階を無視して、ストレートに科学的知識を伝えるのではなく、大切なのは、児童が質問してきた背景(動機)に目を向けることです。単なる好奇心であれば、発達段階に応じた指導内容を伝え、それ以上の内容は時期がくれば学習するので楽しみにしておくよう伝えるので十分だと考えます。何か問題を抱えているのであれば、個別指導で対応してください。

○ 性教育指導マニュアルが出て、校内研修を実施しようとしたが外部講師が見つからない。

○ 外部講師の情報がほしい(研修等のため)。

○ 文部科学省、県の方針等を各先生方に周知できるよう、研修会(講義・セミナー)を希望する。

(回答) 必要であれば、情報提供をいたします。

ただし、学校における性教育は、教職員が主体的に実施するものです。学校における性教育の進め方について校内研修を行うのであれば、平成18年度に愛媛県で開催された文部科学省主催「性教育指導講習会」や平成19年度から愛媛県が実施している「性教育指導者講習会」の受講者を講師として、校内研修を実施していただきたいと考えています。

思春期の子どもたちの現状や性感染症等について、産婦人科医や保健所等の外部講師から研修することもできますが、学校における性教育を推進するためには、教職員相互の研修や研究協議の場の設定が必要であると考えます。

○ 子どもの実態把握をするときの具体的な内容や方法について知りたい。

(回答) 実態を把握する方法としては、アンケート調査、教職員による日常観察結果の分析(性教育指導マニュアルP101参照)、指導実績の累積効果の確認等が考えられます。

把握した結果については、全教職員が共通理解を図り指導に生かしていく必要があります。

○ 具体的な指導事例が多く示されている事例集があると参考にしやすい。

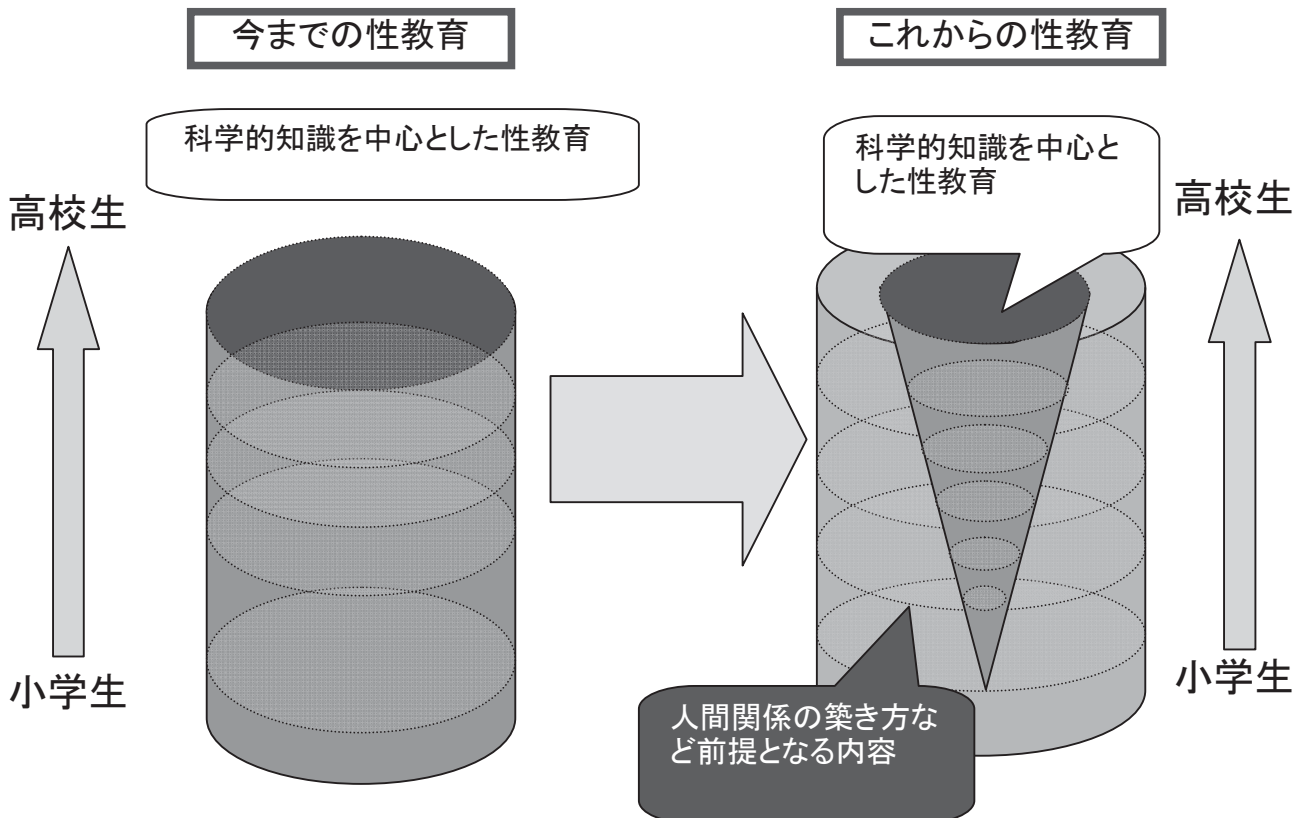
(回答) 文部科学省が「性教育実践事例集」を作成中です。学習指導要領の改訂後に配布される予定ですので、それを参考にしてください。

○ 県として性用語の資料を作成していただきたい。

(回答) 性教育指導マニュアル(p95参照)をご覧ください。

○ 今まで指導してきた内容が否定されたことで、どう対応してよいかわからない。県の指導方針がほしい。

(回答) 今までの内容が否定されたのではなく、これからの性教育は、「科学的知識理解を中心とした性教育」から「人間関係の築き方など前提となる内容と科学的知識理解を中心とした性教育を発達段階に応じてバランスよく指導していく性教育」へ広がりを持って前進していくということです。具体的には、身体の成長や性感染症等の科学的知識については保健で扱うのみならず、性に関する倫理的な面や人間関係の重要性などについても、道徳や特別活動で指導していくということです。



○ 保護者へのアンケートのひな形が欲しい。

(回答) 学校の実態や調査のねらいが異なるので、個別にご相談ください。なお、保護者へのアンケートを行うに当たっては、学校における性教育の全体計画や年間指導計画を示して、目標やねらいを周知しておくことが重要であると考えます。学校の姿勢を示して、一緒に性教育に取り組んでいく基盤を築く必要があります。(資料編参照)
性教育における家庭の役割としては、子どもが悩みを話せる環境づくりなど、家族のつながりをしっかり築いていくことであるということも周知する必要があると考えます。

○ 各学年最低限やっておくべき題材というのがあればありがたい。

○ 性教育にかぎらず、教科内容に位置づけられていなく、教科書のない教育内容をやらなければならないことが多くて手がまわらない現実がある。

(回答) 教科においては、学習指導要領に示されている内容を科学的知識理解を定着させるよう指導し、性に関する倫理的な面や人間関係の重要性などについては、児童生徒の実態に応じて、道徳や特別活動で指導していくということです。(資料編参照)